

# おうしゅう地産地消推進計画の概要

(令和5年3月改定)

## 1. 計画策定の背景

- 六次産業化・地産地消法の制定(平成22年12月制定) ⇒ 地産地消推進計画策定は努力目標  
\*「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」(平成22年法律第67号)
- おうしゅう地産地消わくわく条例の制定(平成30年4月施行) ⇒ 地産地消推進計画の策定を定める(第20条)

## 2. 計画の期間

令和2年度から令和8年度までの7年間(奥州市総合計画及び奥州市農業振興ビジョンと終期を統一)

## 3. 計画の中間見直し

令和4年度に中間評価を行い、併せて計画の見直しを行いました。

## 4. 地産地消の現状と課題

現状	課題
<b>1. 産直施設における農畜産物の現状と課題</b>	
① JA直営、大規模産直や、食品加工、食堂、ネット販売等の複合型産直施設の売上げが好調 ② インショップ型産直施設の増加 ③ 農業者の産直施設への出荷の意識は低調 ④ 市民は産直施設を利用する意識が高い(8割が利用) ⑤ 市民は農畜産物を選ぶ際、「新鮮さ」と「価格の安さ」を重視	① 冬季間や春先等の商品の確保 ② 高齢化等による出品者の減少 ③ 農業者の産直施設出品に係る手間・質・量に対する不安
<b>2. 学校給食等における市内産農畜産物の利用の現状と課題</b>	
① 各学校給食施設で積極的に地産地消を推進 ② 学校給食に提供する米は100%市内産米 ③ 「奥州っ子給食」の実施	① 生産者団体の高齢化等による生産数量、品目数の減少 ② 気象状況の変化等による市内農産物の安定的な確保 ③ 量販店と産直施設における仕入価格の差と量の確保 ④ 学校給食施設統合後の市内産農産物の納品方法
<b>3. 食の安心・安全の取り組みの現状と課題</b>	
① 特別栽培米を市のほぼ全域で栽培 ② GAPの認証及びそれに準じた取り組みは増加 ③ 米と牛肉でトレーサビリティ実施	① 国際水準のGAPの認証手続きが煩雑かつ認証費用が高額 ② 制度の意義や利益が消費者に認知されていない
<b>4. 食育に関する取り組みの現状と課題</b>	
① 食生活改善推進員や食の匠による料理教室等により地産地消や伝統料理の継承の事業を実施 ② 市内保育所や小学校において、農業体験授業の実施	① 家庭における朝食摂取率や減塩などの食生活の改善 ② 「食の匠」等の高齢化による食文化の継承手段の不足 ③ 非農家の増加や核家族化による農村文化の継承手段の不足
<b>5. 食品ロス削減に関する取り組みの現状と課題</b>	
① 市の食品ロスは5,992トンと推計 ② SDGs等国際的な関心の高まり ③ 奥州市食品ロス削減推進計画の策定	① 生産現場における規格外野菜等の活用 ② 「もったいない・いわて☆食べきり協力店」の普及
<b>6. 観光・イベント等の地産地消の現状と課題</b>	
① 農村生活体験や産業まつり等の実施 ② 「食の黄金店」認証制度の実施 ③ 市内飲食店等において、米は地元産の利用率が高い	① 「食の黄金店」の優位性の不足 ② 市内産農畜産物の供給量及び品質の安定 ③ 生産者と飲食店・宿泊施設・観光関係者との接点の不足

## 5. おうしゅう地産地消わくわく条例の基本理念

- 生産者、消費者及び事業者の信頼関係の構築と地域や市民の「元気」の創出
- 高品質な農産物等の安定供給による地域農業の活性化
- 市民による地産地消の自発的な取り組みの尊重
- 市内で生産された農産物等を通じたふるさとを大切にす機運の醸成
- 地域の優れた食文化の継承

## 6. 計画の目標値

推進計画における目標項目及び目標値を次のとおり設定します。

No.	目標項目	現状値 (平成30年)	中間評価 目標値 (令和3年)	中間評価 実績値 (令和3年)	目標値 (令和8年)
1	農畜産物の主な産直施設販売額	1,758 百万円	1,802 百万円	1,482 百万円	1,777 百万円
2	市民の産直や産直コーナーの利用頻度 (月に1回以上)	-	-	78.9% R4年度 消費者 アンケート	80.0%
3	学校給食の市内産食材使用比率 (米を除く主要29品目)	43.8%	47.5%	41.6%	45.0%
4	奥州っ子給食の実施回数(平均)	5.8回	6回	4.3回	8回
5	市の商品開発等の支援による6次産業化件数	延べ5件	延べ7件	延べ8件	延べ9件
6	市内における「もったいない・いわて☆食べきり 協力店」協力店数	3店	5店	8店	10店
7	「食の黄金店」認定店数	7店	8店	7店	6店
8	「おうしゅう“まるかじり”応援の店」店数	-	15店	16店	21店

No.1…奥州市総合計画の成果指標「農畜産物の主な産直施設販売額」を目標値とした。

### 【主な産直施設】

- 産直来夢くん
- 菜旬館
- 江刺ふるさと市場
- いさわ産直センターあじさい
- 水沢観光物産センター
- 古都の遊食

No.2…令和4年度に実施した消費者アンケート調査を参考に目標値を定めた。

No.3…奥州市農業振興ビジョンの最終目標値とした。

### 【参考】

	平成30年	令和3年
米を含めた場合の 市内産食材使用比率	67.7%	66.8%

No.4…市内給食施設全8施設による平均。すべての施設が給食のある月に1度実施することを目標とした。

No.5…奥州市総合計画の成果指標「市の商品開発等の支援による6次産業化件数」を目標値とした。

No.6…令和3年度実績を基に2店の増を目標とした。

No.7…令和4年度現在を目標値とした。

No.8…令和3年度現在から1店/年の増を目標値とした。

## 7. 施策の体系・具体的な取り組み

次頁のとおり

## 8. 推進体制

- おうしゅう地産地消推進会議…推進計画の策定・見直し及び進捗管理
- 奥州市6次産業化・地産地消推進協議会…推進計画の具体的な取り組みを推進するため、市・生産者・農業団体・消費者等による組織

基本理念

市民が「わくわく」する食と農のまち奥州市

地産地消推進のスローガンを「市民が「わくわく」する食と農のまち奥州市」とし、市民が旬を心待ちにして郷土の食を楽しみ、生産者は市民の「美味しい」の声で農業に希望を抱けるまちを目指します。

方 針	取 り 組 み 例
<b>1. 農畜産物の産直施設等に関する取り組み</b>	
① 産直施設への出荷及び集客の推進	冬季間に栽培できる農産物の研究・普及 産直ラリー等、産直への誘客イベントの実施 出荷者等への研修の実施 新たな出荷者の掘り起こしのための指導体制の充実 移動販売の手法の検討
② 消費者から支持される農畜産物の生産	新たな農畜産物生産のモデル事業等の検討 新たな農畜産物生産のための指導体制の充実
③ 農畜産物の高付加価値化	六次産業化への支援 加工施設の整備に向けた取り組み 市内高等学校等と連携した加工品の開発
<b>2. 学校給食等における取り組み</b>	
① 市産食材の利用率の向上	J A と連携した地元産特別栽培米等の提供 市産食材にこだわった学校給食の提供 市産食材使用率向上のための学校給食施設と生産者等との情報交換の機会づくり 保育所等における市産食材の利用拡大 学校給食における市産食材の使用割合を市ホームページで公表
<b>3. 食の安心・安全に関する取り組み</b>	
① 環境保全型農業の推進	特別栽培米の維持・強化 GAP・環境保全型農業の研修会等の実施 市民に向けて環境保全型農業の取り組みと地元産農畜産物の安心・安全のPR みどりの食料システム戦略のPR
<b>4. 食育の推進に向けた取り組み</b>	
① 食と農の文化の継承	保育所、学校等における農業体験授業の実践 出前授業等による児童、生徒と生産者の交流機会の提供 体験農園の周知 味噌や漬物づくり等の体験教室の実施 市民向けの旬の野菜を使った料理教室の実施 食生活改善推進員や食の匠による郷土食等に関する活動への支援
<b>5. 食品ロス削減に対する取り組み</b>	
① 飲食店等における推進	「もったいない・いわて☆食べきり協力店」の普及・PR
② 食品ロス削減に対する啓発	広報等による市民、事業者への周知
<b>6. 観光・イベント等における取り組み</b>	
① 市内飲食店における市内産食材の利用推進	飲食店等と生産者・J A等の情報交換の機会づくりの支援 「食の黄金店」の認定要件の再検討とメリットづくり
② 地産地消をテーマにした観光の推進	「食の黄金店」、「おうしゅう“まるかじり”応援の店」のPR グリーンツーリズム・農泊・農村ワーキングホリデーの推進
<b>7. おうしゅうまるかじりの日と地元酒等での乾杯の推進</b>	
① 毎月第4土曜日は「おうしゅうまるかじりの日」の推進	産直施設・スーパー等と連携して、ポスター、のぼり、レジ前POP等でのPR ホームページやチラシ等により、旬の農産物や調理方法の紹介等によるPR
② 地元酒等での乾杯の推進	市が主催するイベント等で地元酒等での乾杯を実施 市内飲食店等との共同による推進 地元酒等での乾杯について、ポスター、のぼり等でのPR 市内で製造、または市内産食材を原料に作られた酒類やジュースのPR 乾杯用銘柄酒の製作の検討